

2015年（平成27年） 3月 698号

## 主イエスの三つの誘惑

マリノ E. デハクト Jr.

マタイの福音の第四章1-11節までは主イエスが三つの誘惑を受けるところが書かれています。主イエスは荒野で四十日間、何にも食べないで祈りました。これは主イエスが洗礼を受けた後と宣教を始める前の間に起こったことです。聖書に書いてありますが、この出来事は偶然ではなく、聖霊がイエス様をその場所に導いたからです。主イエスが神のみ旨に従うかどうか、悪魔はこの三つの誘惑を主イエスの前に差し出しました。この場面を見ると主イエスには本当に特別な使命があつて、普通の人とは異なっていることがよく分かります。主イエスが普通の人だったら、悪魔、すなわち、サタンは「石をパンに変えてみよ」であるとか、「世界のすべての国を得よ」、「崖から身を投げ出してみよ」などと誘惑することはなかったでしょう。サタンは主イエスが十字架の苦しみで全世界を救おうと決心しておられたので、わざと別の方法を主イエスに勧めたのです。人々を救うためにその苦しみを受けることは必要ないとサタンは主イエスを誘惑したのです。サタンの言うように石からパンを作って、すなわち、物質的な物を人に与えれば、主イエスがメシアだと簡単に皆が信じるだろうと。主イエスが帝国を作って、ご自分が王様になれば人々を支配しやすくなるだろうと。または神殿の屋根から飛び込んで、スーパーマンのような力を人々に見せれば、イエスが神様だと皆はたやすく信じるだろうと考えました。しかしこれらの方法では神様の愛の代わりに物や、周りの人たちの評価が中心になってしまい、神の本当の愛は伝えられないので、イエス様は十字架の苦しみを通してのみ神の愛を伝えたいと思われたのです。

旧約聖書ではアダムとエバが誘惑に負けて罪がこの世に入りましたが、主イエスによってその過ちは正されました。キリストが私たちと同じ人間になられることによって、サタンに打ち勝ちました。この勝利によって、私たちが弱い人間であっても誘惑を避けたり、それに打ち勝ったりすることが出来るという希望がすべての人にもたらされました。しかし、私たちも主キリストと同じように祈らなければなりませんし、神様のみ旨に従わなければなりません。主イエスが神であっても誘惑を受けられたのであれば、キリスト者である私たちも誘惑を受けるのは当たり前なのです。忘れていけないことは主イエスが人からの評価ではなくて、神様のみ旨にのみ従ったということです。人からの評価を気にするようになると高慢になる可能性が高くなります。そうすると私たちの心の中には神の愛の居場所がなくなってしまうのです。高慢は罪の原因だからで

f

す。

私たちは日常生活の中でいろいろな誘惑を体験します。主イエスの誘惑された姿を思い出して、主のお助けによって種々の誘惑に打ち勝つことができるよう聖母の取り次ぎを願いましょう。